

令和6年度 学校評価

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など)	2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	多くの教職員、児童生徒、保護者が肯定的な評価を示しており、心身の健やかな成長が促進され、学校行事や学校からの通信を通じた児童の姿が評価に良い影響をもたらしている。「自ら学びに向かう力を育む教育の推進」においては、落ち着いた学習環境など素地づくりが整ってきているので、総合的な学習の時間を中心に具現化が図られてきている。今後は、他教科に波及させていくため児童の自己肯定感を高めたり、学習への動機づけを高めたりすることを継続し、児童自らが課題解決していく授業への転換を進めていく。
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のまわり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)		教職員、児童生徒、保護者の多くが肯定的な評価を示しており、児童が社会貢献の意識を持って行動できるような教育が行われていることが分かる。道徳や総合的な学習の時間をはじめとする授業や学習発表会を通じて社会貢献の重要性が強調されていることが示唆されている。また、昨年度に引き続き総合的な学習の時間の取組がメディアに取り上げられ、本校の学習が保護者や地域に広まった影響が評価に表れていると考えられる。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。	学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。	この項目では、児童が自分の学習方法やペースを選び、他者の意見を取り入れる授業が行われているかどうか問われている。教職員と保護者の多くが肯定的な評価を示しており、個別の学びと協働的な学びがバランスよく実践されていることが分かる。また、今年度から全校で取り組んでいる「花しタイム」により、言葉や態度でのコミュニケーション力を高め人間関係をよりよくできた。このことが協働的な学びに良い影響を与えていることが伺える。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	7 インクルーシブ教育の推進 学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	教職員と保護者の多くが肯定的な評価を示しており、多様なニーズに対応した支援が充実していることがわかる。特に、特別支援教育に対する評価が高く、通級指導教室の積極的な取組をはじめとする個別のニーズに応じた支援が行われていることが示唆されている。インクルーシブ教育の推進においては、「わからない」との回答が高いことからインクルーシブ教育の理解の推進が求められる。

(3) 最適な教育環境の整備

8 安全・安心な園づくりの推進	9 地域や家庭と連携した教育環境の整備	
<p>学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。</p>	<p>教職員と保護者の多くが肯定的な評価を示しており、安全で安心な環境が整っていること、地域や家庭との協力が円滑に行われていることが分かる。特に、今年度は新道路開通に伴う通学路変更により、地域、保護者、児童を巻き込んで交通事故防止対策、通学路の安全確認を行った。また、野生動物や不審者に関して「すぐーる」を活用して情報共有、注意喚起などを行ったりして、安全対策推進を行ってきた影響が示唆される。</p>

(4) こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり		
<p>学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。</p>		
		<p>概ね肯定的な評価を示しており、児童の最善の利益を守るための環境づくりが評価されている一方、「わからない」と回答している児童や保護者が多く、こどもの権利に関する啓発が引き続き求められている。相談しやすい学校づくりにおいては、スクールカウンセラーの積極的活用を引き続き行うとともに、カウンセリングの希望者が多いため、心の教育相談員の配置を教育委員会へ依頼している。</p>

独自項目

11 家庭学習の定着	12 タブレット端末のルール	
<p>先生方は、積極的、計画的に家庭学習に取り組むように指導をしていますか。</p>	<p>先生方は、家庭と連携しゲーム、タブレット端末の使い方のルールの指導ができていますか。</p>	
		<p>児童は家庭学習の習慣が身についていると感じている一方で、習い事との両立が課題であることが示唆される。また、保護者は子どもの自主的な学習姿勢に課題を感じている。ゲーム、学習用タブレット端末の使い方においては保護者と児童の結果に開きがあることから、保護者の困り感が伺える。次年度の重点課題とした。</p>

13 早寝早起朝ごはん		
<p>先生方は、「早寝 早起き 朝ごはん」の推進に組織的に取り組んでいると思いますか。</p>		
		<p>多くの教職員、児童生徒、保護者がこの取り組みを肯定的に評価している。一方で、習い事、ゲームや動画視聴などで夜遅くまで活動する児童にとって、早寝の習慣を維持することが難しいという声も上がっている。今後もこの取り組みを継続し、さらに効果的な方法を模索する必要がある。</p>

来年度の具体的な取組について

学校の活力を高めるため、以下の3項目の相互作用を意識して組織的に実践していく。

- 家庭学習ががんばり週間期間を全校で設定し、保護者と連携して取り組む。
- 「花しタイム」を全校で継続して実施し、授業に生かすとともに、AIを導入した「まなびポケット」を活用し、個々にデザインされたドリル学習の活用を図り、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。また、総合的な学習の時間を中心とした探求的な学びにも力を入れる。
- 学習用タブレット端末の使い方のルールづくりを教員ばかりでなく、児童や保護者に参画してもらい、実行性のあるルールの構築をめざす。

小中学校関係者評価

- タブレットの使い方に関しては、子どもたちの健康や学力に大きく影響するので、保護者や子どもたちを巻き込んだルールづくりが必要だ。タブレット学習はこれからの時代は必要だが、紙に書いて覚えるなどの学習も必要だと思う。両方をバランスよく取り入れるべきだ。
- インクルーシブ教育は、現在の学級の人数ではうまく機能するか疑問である。先生が受け持つ人数を減らすなど体制を整えることが肝要である。また、現在のように特別支援学校や特別支援学級など子どもの特性に応じた、少人数での個別対応も必要ではないだろうか。
- 地域で子どもたちを見ていると子どもたちの挨拶がとてよくなってきている。総合的な学習の時間で地域のことを学習している影響も大きいにあるのではないだろうか。
- 以前に比べて子どもに対する興味が低い親が増えてきているような気がする。これまで以上に地域、学校、保護者で連携しての子育てが強く求められている。